



修学旅行での学び

5月13日～14日に鳥羽・志摩・伊勢方面へ修学旅行に行ってきました。大きな目的の一つは伊勢神社のせんぐう館で深江の菅笠を見ることでした。子どもたちにとって、深江の歴史を感じる見学になりました。自分たちの町である深江に誇りも感じたことでしょう。

テーマパークのスペイン村などではグループ活動も取り入れました。ただ遊ぶだけの活動ではありません。集合時刻も決めていますので時間を見て計画性をもって活動します。その中でも、アクションが苦手な子もいます。途中で休みたい子もいます。自分の好きなように活動するわけにはいきません。グループの友達と対話し、相手のことを考え、グループで相談して行動を決めるのです。これが学習なのです。

最近では大人の社会でも人のことを考えず自分勝手な言動も増えているように感じます。それでは「幸せ」を感じる社会にならないのではないのでしょうか。これからの社会を担っていく子どもたちには、ぜひ「対話」と「人のことを考える」ことを大事にして「幸せ」をめざしてほしいです。

考え、行動する子どもたち

6年生の子どもたち約10名が地域のごみ拾いの活動を昨年度から自主的に進めています。昨年度5年生の時に環境問題に触れ、自分たちで何かできないかと考えたそうです。一人で考えることも大切ですが、考えたことを友達と話をしたことが大きな学びです。人の考えに触れることで自分の考えが深まったり広がったりするからです。そして、行動に移したことがすばらしい！「失敗してもいいからやってみる」子どもたちに投げかけている言葉です。5人で始めた活動が今では徐々に広がっているようです。下手に大人が介入せずに子どもたちの活動を見守ることもよいのではと、今は活動の話聞くだけにしています。地域でも子どもたちを見かけることがあれば声をかけてやってください。成長していく子どもたちの姿に大人も元気をもらえます。

「働き方改革」って何？ パート1

昨今「働き方改革」が声高に叫ばれ、社会的に働き方を変えようとしています。学校でも同じような動きがあります。しかし、先生たちの業務量は昔と変わっていません。新たな取組が上から降ろされてきて業務が増えているとも言えます。その中でどう働き方改革をしたらよいのでしょうか。そもそもなぜ働き方改革が必要なのでしょう。



学校ホームページ

以前勤めていた学校でこんなことがありました。ある若い先生が夜遅くまでの学校に残って子どもたちが楽しく学んでくれるだろう授業プランを考え準備をして、翌日の授業に臨みました。しかし、思ったような反応がなくすっかり落ち込んでいました。「こんなに考えて準備したのに。どうしたらよいのでしょうか」と聞かれました。授業に改善の余地はありました。しかし、私はその先生の子どもに向かっていく熱意に感心していたので、「大丈夫。めげずに取り組んでいたら子どもに伝わる」と伝えました。先生たちは授業をすることだけが仕事ではありません。子どもを思いながら準備したり学んだりしています。その時間が先生を成長させ、子どもたちに愛情と熱意を注いだ指導ができるのだと思います。(来月号に続く)